

# 魅力ある学校づくり地域協議会通信

発行 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議  
宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課

## 1 平成 27 年度「第 1 回地域コーディネーター研修会」の報告について

- ・ 標記研修会(市生涯学習課、魅力ある学校づくり地域協議会支援会議共催)が、平成 27 年 7 月 7 日に宇都宮市役所 1 4 階大会議室で、41 名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 当日は、主に新任者や経験の浅い地域コーディネーターを対象に、先輩地域コーディネーターによる活動事例紹介、活動の悩みや工夫を共有する情報交換会を通して、活動を円滑に進めるためのスキルを学ぶとともに、地域コーディネーターの役割を再確認したところです。

### 第 1 部 事業説明「魅力ある学校づくり地域協議会と地域コーディネーターの役割」

宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課 主事 佐藤涼

- 魅力ある学校づくり地域協議会の組織および協議会活動の目的について再確認しました。
- 協議会の活動(①活力ある学校づくりへの参画、②地域の教育力を生かした学校教育の充実、③地域ぐるみでの児童生徒の健全育成・安全確保、④学校施設や地域の教育資源を生かした家庭・地域の教育力向上)と、活動ごとに地域コーディネーターが担う役割を再確認しました。
- 「魅力ある学校づくり地域協議会」活性化実践事例集とその活用方法について紹介しました。

### 第 2 部 活動事例紹介

西原小・一条中学校 地域コーディネーター 加藤史子 氏 (コーディネーター活動で心がけていること)

- 地域コーディネーターの役割は想像力を働かせることである。学校支援や協議会活動に自分の考えを提案するなど、主体的に関わっていくことが大切である。
- 協議会活動を円滑に進めていくためには、学校との情報共有は必須である。学校や会長等とのハウレンソウ(報告・連絡・相談)を徹底することが重要と考える。
- 地域コーディネーターはボランティア。活動する上で頑張りすぎないことは鉄則である。複数のコーディネーターやボランティアが互いの得意分野で協力し合い楽しく交流しながら活動できると良いと思う。



清原東小学校 地域コーディネーター 黒澤多香子 氏 (学校支援ボランティアと学校とのかかわり方)

- 魅力ある学校づくり地域協議会が設置される以前から、地域主体の学校支援ボランティアの活動が存在したため、地域コーディネーターが受け入れられるまでに時間を要した。夏休みの作品整理や、工業団地訪問体験など様々な活動を行ったが、既存の活動がある中、新たな活動を開始する際には地域との調整に苦労した。
- 学校の考えと地域コーディネーターの考えが合わないことや、地域の方に協議会活動に賛同してもらえないこともあると思うが、自分 1 人で抱え込まず、協力してもらえる人を探したり、代わりとなる方法を探すとよい。

○ 地域と関わることは楽しいことなので、まずは楽しむことを第一に活動してもらいたい。

晃宝小学校 地域コーディネーター 伊藤三千代 氏 (地域を巻き込んだ活動と心がけていること)

- 地域コーディネーターは校長や副校長と話すことが多いと思う。しかし、校長や副校長が異

動になると、それまでに学校との間で積み上げてきたものが失われてしまう。担任の先生レベルとも日常的に話をする事で、協議会活動に継続性が生まれる。

○先生方にもお子さんと一緒に休日の農園活動に参加してもらっているほか、地域コーディネーターが老人クラブに赴き、地域の子もたちの様子を伝えたり、イベントなどの紹介をすることで、老人クラブの方による協議会活動への参加も得られ、活動が充実している。

○保護者の方々にも「地域の人」という自覚を持ってもらうため、就学児健康診断の機会に地域コーディネーターが時間をもらい、地域協議会の活動や地域の特性を紹介している。地域協議会のことをできるだけ多くの方に知ってもらうことが大切であると考え。

**陽東小・陽東中学校 地域コーディネーター 山田葉子 氏（地域コーディネーター活動を始める人へ）**

○小中学校の違いとして、中学校からは学校支援ボランティアへの依頼は少ない傾向がある。

その分、地域コーディネーターから気がついたことを提案し、自ら活動を発掘している。

○学校の情報を地域に発信することがとても重要と考える。陽東中学校では地域学校園でコミュニティカレンダーを発行し地域に配布しているほか、今年度からは陽東地域学校園ナビを発行しホームページでも閲覧できるようにした。

○協議会で懇親会を行っているほか、地域学校園で食事会を開いており、コーディネーター同士のつながりができている。本日のような研修会の場でも、参加者の皆様には、名刺や連絡先の交換をし、仲間作りをしてもらいたい。そうしてできた仲間が今後の助けとなる。

**第3部 情報交換会**

「地域コーディネーター活動の悩みと工夫」をテーマに、情報交換を行いました。主な内容を紹介します。

悩み	工夫していること
現在行っている活動をさらに拡充したいが、地域の協力者の高齢化が進み、活動を継続することにも苦勞している。	無理をして拡充する必要は無く、現在行っている活動を継続することが重要である。継続が困難な場合は、活動の内容を見直し、地域の実情に応じた形で継続していくと良い。
地域の方の参加者が少ない。 ボランティアの方が集まらない。	活動への参加者やボランティアを募る方法を見直してみる。回覧板やメールなどで広くお知らせするほか、地域団体の集まりなどに顔を出し、地域コーディネーターのことを知ってもらう。
地域コーディネーター・学校・地域間に温度差がある。	年に数回、役員会を開催するなど、交流を深める。また、地域団体の集まりに会長が積極的に参加するなどして、協議会活動を理解してもらう。
児童の保護者がボランティアとして参加すると、自分の子どもばかり面倒をみようとする。	活動の案内通知の中に、保護者向けの参観とは違い、ボランティアであることを書き加えるなど、活動の趣旨を理解してもらう。

**2 平成27年度「新任校長研修」の報告について**

・宇都宮市教育センターが主催する標記の研修会の中で、新任校長を対象に、魅力ある学校づくり地域協議会についての講話が行われましたので、その概要をお知らせいたします。

**宇都宮市教育委員会事務局学校教育課 指導主事 金田操**

○協議会の活性化は、教育委員会重点事業とされている。

○協議会の活動の意義は、地域の子どもの育ちについて学校・家庭・地域が連携して各々の役割を果たすことにあり、学校は協議会と協力して「地域とともにある学校」を実現することが求められている。

